

## 東日本大震災 1 年に際してお礼の言葉

昨年 3 月 11 日に我が国東北地方をおそった東日本大震災から、まもなく 1 年を迎えようとしています。この節目の機会に、改めて大震災の犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、我が国にとって困難が多かった日々にイラン及びイラン国民から寄せられた多大なる支援に対して、心よりの謝意を表します。

イランからは、イラン赤新月社による支援物資の送付、日本を応援するための芸術展の実施、アーザーディ・スタジアムのサッカー試合（ペルセポリス対エステグラール）では被災者の方々に黙祷が捧げられるなど、日本との連帯を表明するための数多くのイベントが開催されました。また日本国内でも、在京イラン大使館による炊き出し、在日イラン人 NGO によるキャバレーの振るまい等が行われ、イランの方々の心温まるお気持ちに接しました。

日本とイランの間には、双方の豊かな文化に基づく長い友好関係が存在しますが、東日本大震災に際するイランの方々のあふれるご厚意に直接触れ、両国間の歴史的、文化的、心情的な絆の強さを改めて実感するとともに、「全人類は一つの身体であり、一部が痛みを覚えれば全身が痛みを覚える」と誦んだサアディの英知を実感しました。

貴国をはじめとする世界各国からの温かいご支援を受け、日本は復興と再生に向けて力強く歩み始めました。被災地のインフラや経済は確実に立ち直りつつあり、首都圏を含むそれ以外の地域では震災前の日常が戻っています。サプライチェーンも完全に回復し、日本におけるビジネス、留学、観光に大きな障害はなくなっていることをこの機会に改めて強調したいと思います。

我が国は、東日本大震災という多大な苦難を経験しましたが、同時にそれは日本人、日本社会のしなやかな力強さと国際社会との「絆」の重要性を改めて認識する機会ともなりました。

困難を好機に転換すべく、また国際社会から頂いた温かいご支援への恩返しのためにも積極的な国際貢献を継続して参ります。また、防災等、我が国の再生に向けた諸課題に国を挙げて対処し、「課題解決のトップランナー」として世界に新たなモデルを示すことでも、国際社会に貢献していきたいと思ひます。

که در آفرینش ز یک گوهرند  
دگر عضوها را نماند قرار

بنی آدم اعضای یکدیگرند  
چو عضوی به درد آورد روزگار

3 月 4 日

駐イラン日本国特命全権大使  
駒野欽一